

市民公開講座

動く喜び、動ける幸せ

ロコモティブ シンドローム

聴講
無料

要申込

要介護となる危険の高い状態を示す言葉として「ロコモティブシンドローム」が提案され、運動器の健康が長寿に追いついていないことを広く社会に訴え、運動器の健康への意識改革と健康寿命の延伸を実現するため啓発活動が行われています。今回の市民公開講座では、ロコモティブシンドロームをわかりやすく解説し、みなさまに運動器の健康に関心を持っていただく事を目的としています。

《出演者》



越智 光夫

第86回日本整形外科学会学術総会会長
広島大学大学院整形外科学教授



戸山 芳昭

慶應義塾大学医学部整形外科学教授



中村 耕三

公益社団法人日本整形外科学会前理事長
国立障害者リハビリテーションセンター総長



衣笠 祥雄

元プロ野球選手、野球解説者



司会 岩本幸英

公益社団法人日本整形外科学会理事長
九州大学大学院整形外科学分野教授



司会 西名みずほ

広島テレビアナウンサー

日時

平成25年5月26日(日)

13:00~15:00

場所

中国新聞ホール

(広島市中区土橋町7-1 中国新聞ビル7階)

プログラム

- 13:00 | 開会の挨拶
越智 光夫 (第86回日本整形外科学会学術総会会長、広島大学大学院整形外科学教授)
- 13:05 | 長寿国日本の課題 一健康寿命延伸への運動器の役割 (ロコモ) —
戸山 芳昭 (慶應義塾大学医学部整形外科学教授)
- 13:35 | 高齢社会における運動器の役割 —ロコモティブシンドロームとは—
中村 耕三 (公益社団法人日本整形外科学会前理事長、国立障害者リハビリテーションセンター総長)
- 14:05 | 連続試合を支えた体力作り
衣笠 祥雄 (元プロ野球選手、野球解説者)
- 14:35 | 総合討論
司会/岩本 幸英 (公益社団法人日本整形外科学会理事長、九州大学大学院整形外科学分野教授)
西名みずほ (広島テレビアナウンサー)
- 15:00 | 閉会

申し込み方法

事前申し込みが必要です。参加ご希望の方は、はがき・FAXまたは電子メールに、郵便番号、住所、名前、電話番号、参加人数、ロコモティブシンドロームに関する質問(ある方のみ)を明記のうえ、下記までお送りください。なお応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。

メディア中国 医療セミナーチーム 「ロコモティブシンドローム」係

- はがき/〒730-0854 広島市中区土橋町7-1 中国新聞ビル8F
- FAX/082-232-7977
- メール/event-2@media-chugoku.jp

*質問は講演や総合討論の参考にさせていただきます。
個人情報(応募券の発送)に使用させていただきます。

締め切り/5月10日(金)必着
問い合わせ/082-236-2860(土・日・祝を除く9:30~17:30)



「ロコモティブシンドローム」とは

ロコモティブシンドロームとは、運動器の障害によって日常生活で人や道具の助けが必要な状態、またはその一歩手前の状態をいいます。運動器とは筋肉、関節、骨などの人が移動するために使う器官のこと。筋力が低下したり、関節に疾患を持っていたり、骨粗しょう症などで骨がもろくなっていたりすると運動機能が低下し、日常生活に支障が出てしまいます。その兆候が、実は40代から始まっているのです。

主催/公益社団法人日本整形外科学会

日本学術会議臨床医学委員会運動器分科会

共催/中国新聞社